

川柳相撲・中七川柳の説明

◎川柳相撲のやり方。

- 一、出席者を西東の二組に分ける。これはクジを使うといい。偶数奇数で分けると分りやすい。
- 二、行事、呼び出し、記録係を決める。行司が記録できるのなら、記録係はなくてもいい。二組に分けられない人数の場合に調整のために記録係をおいてもいい。
- 三、初めに課題を出し、三分ほどで三句作ってもらい、西東から一人ずつ土俵の前に出てきてもらい、句を読んでもらう。
- 四、両方の句を聞いて、行司が優劣を決める。勝った人は一勝、負けは一敗。行事の裁定に不満があれば、出席者からの「物言い」を受け付ける。数名を審判員としてあらかじめ決めておいてもよい。
- 五、三句終わった時点で、三勝、二勝一敗のものだけでトーナメント方式にする。
- 六、トーナメントは即吟。その場で課題を与え、出来たほうから句を読み上げる。行事は同じように優劣をつけ、勝ち残りは次へ進む。
- 七、決勝までこのスタイルで進め、優勝者は「横綱」として、インタビューの後、回しを着けて土俵入りをする。

なお、人数が少ない時、時間がある時は、トーナメント制を採らずともよい。また、一回戦から即吟で行ってもよい。

◎中七川柳のやり方。

- 一、出席者全員に句箋を配布。まず下五、又は上五だけを書いてもらう。
- 二、それを回収し、ばらばらに再配布し、書いていないほうの上五、または下五を書いてもらう。
- 三、再び回収し、ばらばらに配布。関係のない上五と下五をつなげる中七を考えてもらう。
- 四、選考はその時に応じた抜句数で行う。呼名は「中七」を作った人がする。

時間短縮と、ルールを分りやすくするために、あらかじめ同じ上五、下五を書き込んだ句箋を配布してから行う方法もある。この場合、回収と再配布は一度ずつですむ。

- 五、上五、下五をあらかじめ用意して2題行う場合、選考者は作句に参加せず、回収再配布作句の時間に選を終わらせ、二題目は一題目の披講中に選考を終わらせるようにすると、リズム良く進めることができる。(中七を作った人が呼名するという普段ないことなので、時間が経ちすぎると作った人が忘れてしまう率が高いので注意)